

## 第1回 デフリンピック運営委員会 (議事概要)

### 1 開催日時

2023年4月12日(水) 15時から16時半まで

### 2 開催場所

戸山サンライズ2階会議室

### 3 構成員等

#### ○委員(構成員)

石原 保志(国立大学法人 筑波技術大学 学長)  
延興 桂(公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長)  
太田 陽介(一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事)  
畑中 淳子(弁護士)  
早瀬 久美(デフリンピック選手)  
久松 三二(一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事)  
薬師寺 道代(医師)  
横山 英樹(東京都生活文化スポーツ局長)

#### ○事務局

倉野直紀(一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会事務局)

### 4 要旨

#### 【事務局 説明】

- ・2025年デフリンピック大会の準備にあたり、今年3月に、デフリンピック運営委員会の「運営委員」を選考するための選考委員会を開催した。
- ・そして、選考委員会から皆様を当連盟理事会にご推薦いただき、承認された。
- ・本日は第1回目の運営委員会となる。なお、運営委員会は今後、4半期に1回程度の開催を予定している。

#### 【委員長及び副委員長選出】

デフリンピック運営委員選考規程に基づき、委員同士で互選を行った結果、運営委員会の委員長は久松委員、副委員長は薬師寺委員に決定した。また、運営委員会規程に基づき、委員長は当連盟の事務局職員の中から倉野を事務局長に任命した。

#### 【議事進行】

##### (久松委員長)

- ・ただいま、委員長に選ばれた久松です。2025年デフリンピック開催において、東京都の皆様からご尽力いただいている。今後も皆様にお力添えいただきたい。ご協力をお願いします
- ・なお、今回、本委員会にはオブザーバーとして、東京都聴覚障害者連盟より、栗野会長と越智事務局長が参加することをご了承願いたい。なお、今後もオブザーバーとして参加する。
- ・まず、議事進行に入る前に、大会準備連携会議で確認をした2025東京デフリンピック大会の運営体制や業務分担、事業計画の方針について、事務局から説明をお願いします。

##### (倉野事務局長)

- ・昨年11月に、「2025年デフリンピック大会開催に向けた準備運営体制に関する検討会」を立ち上げ、ガバナンスを確保した運営体制について検討を進めてきた。
- ・検討会での議論を踏まえ、大会の準備・運営について、関係者で情報共有、調整・協議し、必要な助言等をいただく、「2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」を設置した。
- ・連携会議は、全日本ろうあ連盟、東京都、スポーツ庁、JOC、JPSA、弁護士、公認会計士で構成し、事務局業務は連盟と東京都が連携して実施する。

- ・大会の準備・運営のフェーズを「基礎プランニングフェーズ」、「詳細プランニングフェーズ」、「直前準備フェーズ」、「大会本番」としている。
- ・次に、連盟と東京都の業務分担について説明する。
- ・先ほどお話したロードマップに定める取組を進めていくため、連盟と東京都は協定を締結し、大会準備にかかる業務を分担することになった。連盟はそれまで内部に設置されていたデフリンピック準備室を改編し、「デフリンピック運営委員会」を設置。お互いが連携・協力しながら、大会準備を進めていくことになる。
- ・次に、2025年デフリンピックの大会規模（試算）について、説明する。
- ・都から助言を受けて、デフリンピック規約や過去の大会を参考に、2025年大会のサービスレベルを国民体育大会並みと仮定し、試算した。大会規模は約130億円程度を見込んでいる。なお、今後、大会経費の精査は続け、コストのかからない大会を目指す。
- ・次に令和5年度の事業計画を説明する。
- ・スポーツ庁の指針等を踏まえ、ガバナンスやコンプライアンス、予算・契約・調達に係る内部統制や外部チェックの仕組みの構築、全国への気運醸成の推進、大会エンブレムの制作等に取り組む。
- ・都スポーツ文化事業団も同様に、ガバナンス体制の構築に取り組むと共に、競技要項や会場運営の計画、輸送・宿泊計画等の検討に取り組むとしている。
- ・運営委員会の予算は、初年度は各種計画の策定費や事務局運営費等を計上した。内訳は、広報費等の事業費404万円、人件費等の管理費に2,556万円を計上し、合計で2,960万円となった。
- ・以上、これまでの大会準備連携会議で確認したことを説明した。もし質問があればお願いしたい。

（久松委員長）

- ・ただいま、事務局長からの説明に対し、質問があれば挙手願いたい。〔各委員より「なし」との声あり〕では、事務局長から各議題について説明をお願いしたい。

#### ○議題（1）エンブレムの制作について

（倉野事務局長）

- ・大会エンブレムに、大会開催の意義を込めるため、以下の方針で制作したいと考えている。
- ・「きこえない人を制作の主役に」きこえない人がデザイン案を作成する。
- ・「次代を担う若者の参画」エンブレムは若者が作り、決める形にしたい。
- ・「きこえない人ときこえる人が協働する」、きこえない学生ときこえない子どもたちが、デザイン案について意見交換ができる場を設け、目指すべき共生社会を体現する作成プロセスとしたい。
- ・大会エンブレム制作自体が、都民への共生社会実現に向けたメッセージとなる。制作にあたり、国立大学法人筑波技術大学及び東京都と連携・協力し、進めていく。
- ・5月から7月末までに候補案を複数作成してもらおう。その後、商標調査、登録を行い、きこえない学生と都内の中高生でのグループワークを行いたい。
- ・子どもたちにデフスポーツやデフリンピックを知ってもらおう良い機会と考えている。いろいろな意見を出していただき、共に候補案を作り上げていく。そして、子どもたちに候補案に投票をしていただく。

#### ○議題（2）全国への気運醸成について

（倉野事務局長）

- ・次に、議題（2）全国への気運醸成についてご説明する。
- ・招致プレゼンでは、大会コンセプト1.「デフアスリートを主役に、そしてデフスポーツの魅力を伝え、人々や社会とつなぐ」と掲げている。これを踏まえ、全国への気運醸成を推進する。
- ・全国各地でイベントを実施し、デフリンピックやデフスポーツについて関心や認知の向上を図り、ひいては2025年デフリンピックへの気運醸成を推進する。
- ・実施個所は、全国8ブロック（北海道、東北、関東、東海、北信越、近畿、中国・四国、九州）を

検討している。

- ・ イベント内容は、「みる」「する」「ささえる」、この3つを体験することを基本としたい。内容は、啓発映画上映、デフスポーツまたはパラススポーツ体験、講演またはパネルディスカッション、パネル展示など。
- ・ イベント実施にあたり、地域の社会資源（アスリート、当事者団体、支援団体、自治体、スポーツ関係団体等）との連携を支援し、イベントを通して、きこえない人ときこえる人との協働による共生社会実現に向けたメッセージとなるようにしたいと考えている。
- ・ スケジュールでは、夏ごろから来年3月にかけて、スポーツや手話言語に関する節目の機会があるので、それを活用し、当連盟加盟団体や自治体に、イベント開催協力を働き掛けたいと考えている。

### ○議題（3）全国への気運醸成について

（倉野事務局長）

- ・ 次に、議題（3）社会的・文化的プログラムの検討についてご説明する
- ・ デフリンピック規約では、「組織委員会は、選手その他参加者がレクリエーションプログラムを利用できるようにする。このプログラムには、開催都市のための社会的・文化的プログラムに関する情報を含む」とされている。
- ・ 本年度はプログラムの検討に着手したいと考えている。検討にあたり、きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者、東京都等と連携・協力していく。
- ・ きこえない人の芸術文化活動や手話言語文化を国内外の人に触れてもらうことを機に、招致プレゼン「デフリンピック・ムーブメント“誰一人取り残さない世界（SDGs）”の実現」につなげる。

（久松委員長）

- ・ それではここで、委員の方々から意見をいただければと思う。

（石原委員）

- ・ エンブレム制作に当大学の学生が関わり、学生自身が大きな事業に関わることが、自分自身の自己向上、成長力を育てるという教育的視点がある。
- ・ エンブレムを含め、きこえない子どもや学生、他のきこえないひとときこえる人が一体化して、社会を変える良い機会。学生を中心に教職員も支援に加わり、それが学生の成長に結びつくと考える。

（延與委員）

- ・ 2025年に向けた気運醸成は大切だが、一番大切なことは、2025年の先。デフリンピックをきっかけにデフスポーツが大きく発展することを目標に大会開催成功に注力したい。私ども団体も応援したい。

（太田委員）

- ・ 私は役員として、1997年のデンマーク大会や2001年のローマ大会も経験した。
- ・ デフリンピックはまだ国内の認知度が低い。デフリンピック及びデフスポーツを国民に知ってもらいたい。
- ・ きこえなくてもできるという姿をみなさまに示し社会を大きく変えていきたい

（畑中委員）

- ・ 国際スポーツ大会は世の中から厳しい目で見られている。ガバナンス体制の在り方の指針に従うのはもちろん、まず、参加するこの運営にかかわる全員が同じ目標を持つことが重要。
- ・ 大会成功の形はいろいろある。全員で同じ目標を見据えて進めることが大事。
- ・ クリーンな大会ということで情報公開が大切になる。気運醸成のために今後行う広報活動をする際、デフリンピックに対する理解を進めるためだけでなく、大会運営もクリーンであることを適切にアピールしていくことが必要。
- ・ ガバナンス体制構築のため、全員で指針を守り進めることも大切だが、選手のパフォーマンスが窮屈にならないように。競技環境が制約されるのは本末転倒。

（早瀬委員）

- ・デフアスリート代表として、委員を務めることはとても光栄。デフリンピックではきこえない選手たちは手話を使い競技をしている。これが大きな特徴。手話はきこえない人の言語であり、この言語を使って競技に取り組む。
- ・過去3回のデフリンピックに出場したが、一番の障壁は情報保障。大会の中できちんと手話言語を使うこと。手話言語がコミュニケーションの中で一番お互いに通じ合う方法。我々には、文字や字幕だけでは伝わらないニュアンスがある。文字では伝わらない部分、文章が苦手な方々、デフアスリートときこえる関係者の間が手話言語だとお互いスムーズに行く。手話通訳者の配置、情報保障の確保、増やしていくことが必要。
- ・また、文字の苦手な人へのピクトグラムも今後のスポーツ大会の手本となるようにすれば、それがレガシーになる。デフリンピック 100 周年、さらに 100 年後のデフアスリートのためにもレガシーを残していきたい。

#### (横山委員)

- ・2025 年デフリンピックはスポーツ振興や共生社会の実現、二つの大きな目標がある。これを実現することですべての人が輝くインクルーシブな街、東京を実現していきたい。
- ・エンブレムの作成、全国でのフェスティバル、社会的・文化的プログラム、少しずついろいろと動き始めたのは嬉しい。東京都も全面的にバックアップさせていただき、さまざまな意見や助言をいただきながら気運醸成や本番へと進めていければと思う。

#### (薬師寺副委員長)

- ・私にとっては夢のような場。もう 10 年以上、デフリンピックに関わり、ようやくここまで来た。選手から日本でのデフリンピック開催はありえないと言われ、残念に思ったが、後 2 年半で東京でデフリンピックが開催できる。これは多くの皆様の協力あってのことであり、お礼を申し上げたい。
- ・運営委員会として今後、透明性やガバナンスが保たれば、多くの選手・支援者がついてきてくれるはずデフリンピックはとても暖かい手作りの大会。当事者が行政の力を借りながら開催している。
- ・2025 年デフリンピック開催の期待は日本の選手たちだけではない。世界中から日本で開催してくれと要望された。2025 年はデフリンピック 100 年という大事な大会であり、日本がどれだけ信頼された国であるかを示す必要がある。私たち運営に関わる者は大変な重責を担っている。
- ・言葉の面としてもデフリンピックは特殊。国際手話や手話言語がこのデフリンピックの根底にあることを忘れてはいけない。フェスティバルや文化的プログラムにしっかりと手話言語を盛り込んでいただきたい。手話言語がろう者のアイデンティティであり言語であることを、我々きこえる人も知ることが大切。ろう者の文化や手話言語をたくさんきこえる人が知る機会になればと思う。

#### ○まとめ

#### (久松運営委員長)

- ・皆様から大変、重要なお意見をいただいた。2020 オリパラでバリアフリーやユニバーサルな街づくりが進んだ。そのレガシーを今後生かして、次の世代につなぐのが、我々の課題だと思う。
- ・きこえない人たちの未来を作っていくことに繋げる。デフリンピックはオリパラとの大きな違いは運営主体が当事者であること。きこえない人ときこえる人が共に大会を成功させる。
- ・ろう者の芸術文化活動も含め、様々な分野の第一線で頑張っているきこえない人たちがいることを全国のきこえない子どもたちに見てもらうことで、いろいろな分野で活躍できるという夢や目標をつくるきっかけになる。それが1つのレガシーになる。
- ・東京都が推進しているユニバーサルコミュニケーションや手話言語条例をもとに、コミュニケーションの選択の機会やコミュニケーションバリアフリー、ICT 技術も活かす。これが共生社会のあるべき姿と考える。
- ・委員の皆様へ頂いた意見を今後活かす、またご承認いただいた事業は、大会準備連携会議にも報告し、そこでもご助言、ご支援をいただきたい。また、会議資料や議事録は後日、当連盟ホームページで公開する。

- ・次回の開催時期については改めて事務局から皆様にご連絡を差し上げる。

以上